

ピロリ菌と胃がん

畠山 昌則 先生

東京大学医学系研究科 微生物学分野 教授

平成 **30** 年 **3** 月 **3** 日(土)

開演 10:00 (開場 9:30)

徳島大学 藤井節郎記念医科学センター 藤井節郎記念ホール
入場無料

胃がんは日本人にもっとも多いがんの一つです。我が国では毎年約12万人が新たに胃がんと診断され、約5万人が胃がんで命を落としています。最近の研究から、日本人の胃がんの大多数は、胃の中に棲む細菌(バクテリア)であるヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)によって引き起こされることが明らかとなってきました。胃がんを引き起こすピロリ菌はミクロの注射針を多数持っており、この針を胃の細胞に直接刺し込んで細胞をがん化させるタンパク質(CagAという名前です)を注射します。胃の細胞の中に侵入したCagAはトロイの木馬のように働き、正常な細胞の働きを次々と妨害していきます。結果、将来がん細胞になるような異常な細胞が胃の中で生まれると考えられます。

本講演では、ピロリ菌感染が胃がんの発症をうながすメカニズムを、ピロリ菌研究の第一人者である畠山先生にわかりやすく紹介していただきます。多数のご来聴をお待ちしております。



お問い合わせ先

〒770-8503 徳島市蔵本町3-18-15

徳島大学先端酵素学研究所 プロテオゲノム研究領域2F

NPO法人ゲノム徳島事務局 TEL 088-633-9452